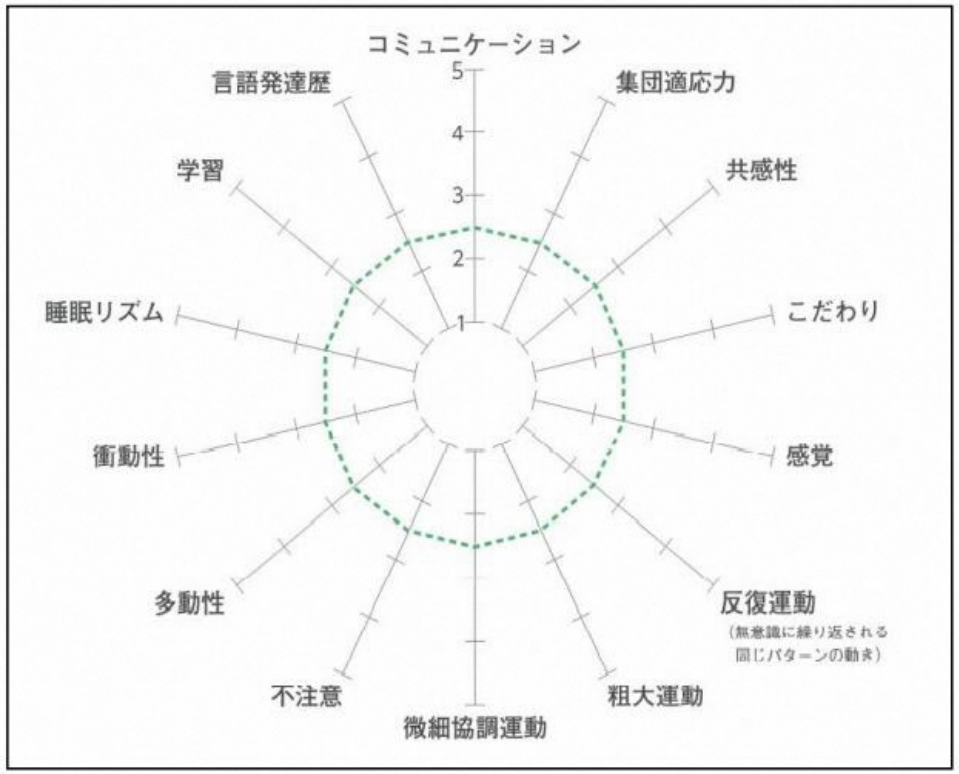
発達障害児早期支援システム研究事業について（令和２年度事業報告）

発達障害の特性のある就学前の子どもの早期支援を進めるため、園医健診、かかりつけ医健診、特性評価（アセスメント）の三層構造による早期支援システムの構築に向けた研究事業を行うもの。

※　特性評価のツールとしてMSPA（発達障害の要支援度評価尺度）を採用、早期支援ツールとしての活用可能性を探る



〔MSPAレーダーチャート〕
日常生活で困りやすい特性とその程度をレーダーチャートで表示し、支援者等と情報を共有する。

〔令和２年度実績〕

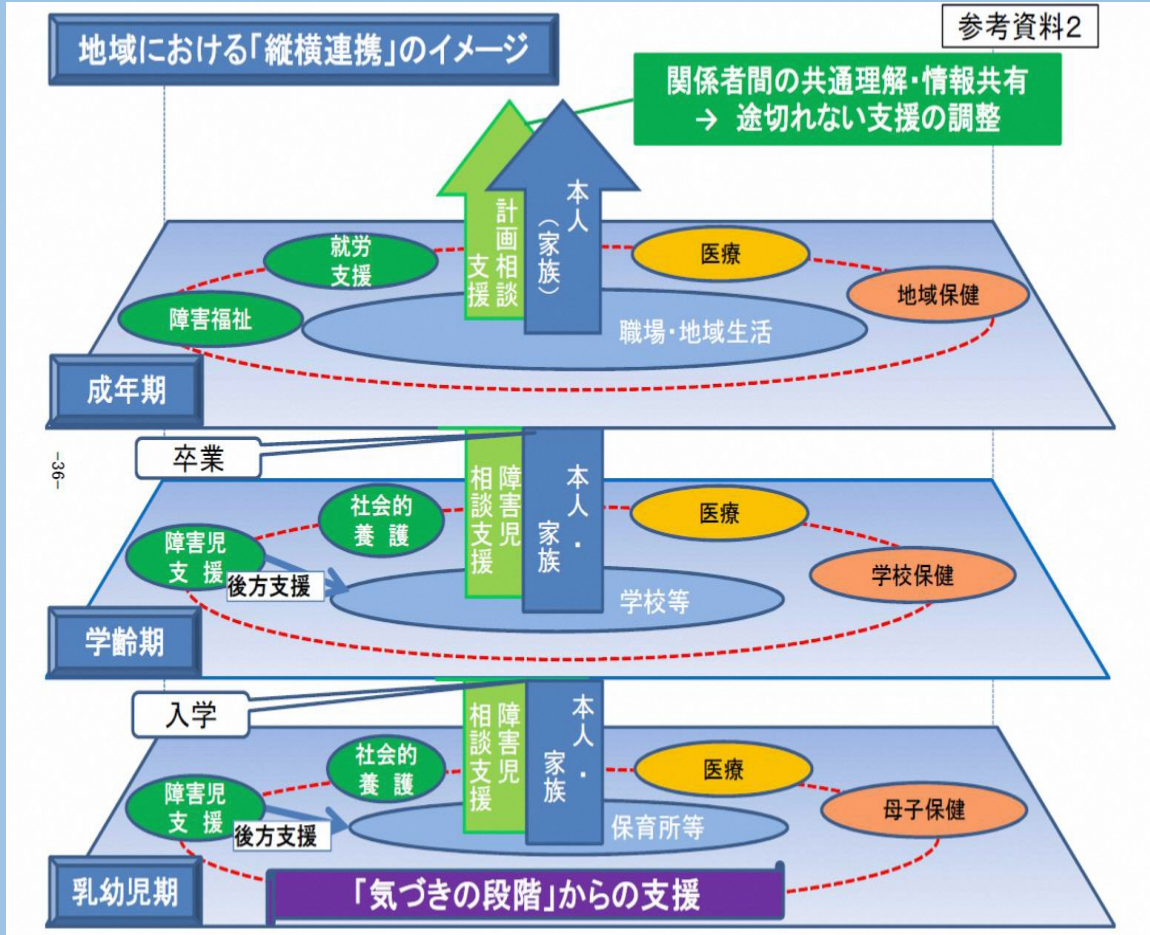
① モデル児童（2名）の就学移行チーム支援
- 令和元年度MSPA評価児童（２名・年長児童）の小学校就学をチーム支援
- 小児科医の指導のもと、児童発達支援センター、保育所、保護者、市職員がチームで就学移行支援。
- MSPAについてWeb学習会開催（講師:ツール開発チーム関係者）
- 引継様式の選定、MSPA結果の反映について検討
- 就学先小学校と、就学前に関係者支援会議を開催（３年３月）

② 特性評価につなぐ健診システムの研究
- 市内小児科医（6名）による研究チーム編成
- 保・幼の年中（4～5歳児）を対象に、園医健診、二次健診（小児科医）の仕組みを検討
- 市内の先行研究、試行ケースを参考に、SDQ（子どもの強さと困難さアンケート）を活用した健診システム企画案策定（次年度、複数園で試行）

③ アセスメントツールの普及、支援システム構築
- 市総合療育センター多職種によるWeb学習会・事例検討開催（講師:ツール開発チーム関係者）
- ライフステージを通した「気付き～理解～支援」のシステムについて発達障害者支援地域協議会で議論、令和３年2月に「議論の中間まとめ」完成へ

今後の展開

- MSPAを活用した特性評価は保護者、支援者共に好評。子どもの行動の背景にある特性の理解に有効。
- 令和３年度もモデル児童のフォローアップを継続、小学校におけるツール活用の可能性を探る。
- 評価者の確保とスキルアップ、情報共有の仕組み、特性に応じた「手立て」の普及、支援の引継など、システム構築へ向けた課題について検討するため、令和２年度末を目途に発達障害者支援地域協議会「専門部会」立ち上げへ。



今後の障害児支援の在り方について　報告書より(平成26年７月　障害児支援の在り方検討会)

〔3つの専門部会〕MSPAを支援の軸としたシステム検討　＋　強度行動障害

① 調査・骨格検討部会
- 発達障害のある人の生活を支える「基本の手立て」を整理検討（例:生活環境の構造化、理解と表出のコミュニケーション支援
- 現状分析、実態調査の企画実施（「基本の手立て」の普及等）

② 第一部会（支援システム検討部会）
- 幼児期から成人後までの重層的な支援システムの検討
- 健診や治療、相談などの機会を活かした「特性の気付き・理解」
- 当事者の生活を支える「基本の手立て」の継続支援

③ 第二部会（強度行動障害支援検討部会）
- 行動障害の予防から早期介入、集中支援、支援付き地域生活への移行まで一貫したシステム構築
- 強度行動障害のある人の「暮らしの場」や、その人らしい「暮らし方」を支える体制について

〔研究事業の継続〕
- モデル児童のフォロー、就学先小学校関係者との学習会開催
- 年中児園医健診、小児科二次健診、MSPA評価の新規試行
- MSPA普及状況の調査、市内評価者向けスキルアップ講習会開催